

令和6年度 第2回仙台市地域保健・保健所運営協議会 議事録

開催日時	令和7年1月23日（木）14：00～
開催場所	市役所本庁舎8階 第一委員会室
委員 （敬称略）	寶澤篤（委員長）、松永弦（職務代理者）、小田島久美子、小菅玲、 後藤知子、小林正裕、櫻井雅浩、佐藤昌司、下山田鮎美、千石祐子、 二木多賀子、本田直子、松野あやえ （欠席）伊藤美由紀、大竹伸治、北村哲治、小池和幸、松本宏子
事務局	健康福祉局 局長、理事、障害福祉部長、保険高齢部長、保健所長、保健所副所長、 衛生研究所長、保健管理課長、医療政策課長、健康政策課健康増進係長、 保険年金課長、地域包括ケア推進課認知症対策担当課長、予防企画課長、 感染症対策課長、医務薬務課長、生活衛生課長 こども若者局 局長、こども家庭部長、総務課長、こども家庭保健課長 教育局 健康教育課長 区役所 青葉区保健福祉センター次長、宮城野区保健福祉センター所長、 若林区保健福祉センター所長、太白区保健福祉センター所長、 泉区保健福祉センター所長
次第	1．開会 2．あいさつ 3．議事 （1）「第3期仙台市いきいき市民健康プラン」に基づく令和6年度の取り組みについて （2）令和6年度 保健所の主な取り組み状況について （3）その他 4．閉会

1 開会

2 あいさつ

【委員長】

いきいき市民健康プランの第三期が稼動している。

事務局から進捗報告があるが、目標を高く設定しているプランなので、気づいたところに意見をいただき、よりよい仙台市となるようにみんなで支えていきたい。皆様からの意見をよろしくお願いします。

《新委員の紹介及び挨拶》

千石委員挨拶

《職員の紹介及び協議会の成立報告》

【委員長】

今回の議事録署名を二木委員に依頼。

3 議事

(1) 「『第3期仙台市いきいき市民健康プラン』に基づく令和6年度の取り組みについて」事務局（健康政策課健康増進係長）から資料1のとおり説明

【委員長】

1月11日（土）の『子育てフェスタ&健康フォーラム』ありがとうございました。

このような健康イベントを行うと、検診をしっかり受けている、または毎日血圧測定をしている高齢者の方が多いが、子育て世帯向けのイベントと合同だったので、その手前の世代のお父さんお母さんが来場しており、まだ病気になる前の方々にいろいろお話をすることができた。今回2つの部署合同で開催していただき、すごくよかったと思う。

【松永委員】

仙台市医師会も『子育てフェスタ&健康フォーラム』に参加したが、赤ちゃんのハイハイレースの参加者はどのくらいで、盛り上がったか。

【事務局（子ども家庭部長）】

今回、仙台市の事業としては初めて赤ちゃんのハイハイレースを取り入れました。正確な参加人数はわからないが、最初に受付をする段階で行列ができるぐらい、とても好評でした。またイベント自体も盛り上がり、お父さんお母さんたちも笑顔で、アンケートの中身は精査中ですが、好評の感想をいただいているところです。

【松永委員】

今後も継続してやってほしい。

イエローグリーンキャンペーンについては、宮城県医師会環境保健委員会が中心となって実施しているが、今年度、参加いただきありがとうございました。たくさんの団体に参加してもらったが、令和7年度も実施予定です。去年始まったばかりだが、キャンペーン週間だけでなく、今後は1年を通してやっていきたいので、ぜひ、ここに参加している団体の方々にも協力してほしい。

【本田委員】

私は他の方と違い、健康や医療系の団体から来ているわけではないので、資料をみると、こんなにいろいろなことをやっていたのかと毎回思う。

今はものすごく情報が増えているので、こういうことをやっているという情報を私はうまく入手することができず、知ることができなかった。例えば、私の世代であれば、アプリを使って歩くことができたと思うが、そういうアプリがあることを初めて知った。

資料1の3ページ『子育てフェスタ&健康フォーラム』のポスターの右下に『machico』と記載されており、雑誌を使って、イベントの告知をされたのかと思うが、やはり民間の媒体も使った方がよい。毎回同じことを言っているが、いいことをいろいろと企画しているが届いてない。周知活動のあり方をもう少し工夫しないともったいないと感じた。

【委員長】

周知が難しい時代になっており、回覧版で回覧する時代でもなくなっていると思うが、かといって、YouTubeなどにアップして見てもらえるかというとなかなかそうでもない。今回の周知について、工夫したところや困ったこと、次にやろうと思っていることがあれば事務局からお願いします。

【事務局（健康政策課健康増進係長）】

広報に関してはご意見いただいたとおり課題がまだ残っていると感じている。

今回 PHR アプリについては、10月に市長発表をし、メディアでも取り上げてもらったおかげで、アールワーク仙台のホームページの閲覧数も通常だと1,000に満たない閲覧数が10月には閲覧数が12,000以上となったので、少し効果はあったと思う。

また、本市の広報課で実施している河北新報のプレス仙台という記事で取り上げてもらったり、河北新報の一面に PHR の広報を載せてもらうなど、広報に力を入れているが、なかなか行き届かなかったというところは反省点として、次年度以降につなげていきたい。

また、『子育てフェスタ&健康フォーラム』では『machico』や様々なポスター、SNSを活用した広報を、委託事業者に工夫して実施してもらったが、こちらも課題が残るところかなと思うので、反省点を踏まえ、次年度につなげていきたい。

【委員長】

『子育てフェスタ&健康フォーラム』の開催日は雪が降り、前日まで降った雪がまだ道路に残っていたが来場者が多く、とてもアピールができていたし、あの天気の中であれだけの人が来ていたので、天気がよければ、もっと来場者が増えていたと思う。もっと広く情報を知ってほしいというのは確かだと思う。

また、アルークワーク仙台の閲覧数が10,000を超えたのはよかったが、10,000を超え続けないといけない。

【佐藤委員】

喫煙対策について、今回の資料では禁煙に向けた取り組みが報告されているが、仙台市と宮城県と協会けんぽが共同で行っている受動喫煙防止宣言施設という事業がある。

施設ごとに禁煙することを宣言し、登録してもらう事業で、協会けんぽで窓口を行っており、仙台市内の事業所で400社、673施設が登録している。

この事業はもう何年も行っているのだから、仙台市からももっとPRしてもらい、どんどん登録してもらえるように、協力してほしい。

私は昼休みに食事を摂るために飲食店に入るが、近くでたばこを吸う人がいる。夜アルコールを出す店では、なかなか区分けも難しいかもしれないが、完全禁煙の店舗、お昼だけ禁煙にするような取り組みをする店舗を増やしていければよいと思う。地方転勤した中で綺麗な空気のお店ということを証明するようなロゴを作り、お店に掲示するという取り組みを行っている自治体があったので、今の取り組みの延長でやればよいと思う。

また、第3期の仙台市いきいき市民健康プランでは、生活習慣病の発症予防・重症化予防の主な重点目標で、がん検診の受診率何%以上と目標設定されているが、その次の取り組みとして、検診の結果が悪い人の中には受けて終わりという人が一定数いて、協会けんぽとしても困っている。結果が悪かった人はすぐに再検査に行くか治療を受けることを促すような広報にも力を入れてほしい。

【委員長】

昔、宮城県か仙台市でお店に禁煙マークのようなものを張ってもらう事業があったと思うが、事務局で今どうなっているかわかるか。

【事務局（健康政策課健康増進係長）】

今は受動喫煙防止宣言施設の登録制度という事業だけが残っているという状況です。

【委員長】

重点項目にも入っているので、そのあたりが見えるようにできればよいのではないかといい提案なので、検討していただきたい。

また、検診を受けない人問題、健診後、再検査となったが、再検査を受けない人問題、病院には行ったが、治療を途中でやめてしまう人問題の3つがあり、いずれもあともう少しやれば、病気にならずに済むのに非常にもったいないので、引き続きこの場でも検討ができればよい。重点項目でもあるので、よろしくお願いします。

喫煙率は宮城県がワーストを行ったり来たりしており、宮城県は喫煙率が高く、仙台市だけが喫煙率が低いということはないと思う。仙台市は宮城県の人口の半分を抱えているので、頑張っていけないといけない。政令市の中で何番目なのかを調べておくとよい。

【二木委員】

1月11日（土）の『子育てフェスタ&健康フォーラム』に宮城労働局からは治療と仕事の両立支援に関するリーフレットを置かせてもらった。

私たちは職域の部分の担当になるので、働く世代の方々へ周知するよい機会をいただいたと思う。

職場の中での治療と仕事の両立支援というのがまだまだ認知度が低いところも課題と考え

ている。健康がテーマのイベントにこのリーフレットを置かせてもらうことに少し後ろ向きな感じもあり、迷いながらお願いをしたが、3人に1人は何らかの病気を抱えながら仕事をしているという話もあるので、周知のいい機会をいただいたと思う。

職場での健康診断や一般健康診断を受けた後、事後措置を講じてくださっている中で、特にその結果が悪かった方について、労災保険の制度によって二次健康診断給付制度というものもあるので、職場の中で利用してほしい。

ただ検診に引っかかった人全員が対象になるというのではなく、血圧検査、血中脂質検査、血糖検査、お腹周りの腹囲またはBMIのすべての検査項目で、異常の所見があると診断された方が対象になるので、うまく使ってほしい。

【委員長】

そういった情報も含めて、大事な情報がなかなか伝わっていないところがありますので、ぜひ力を入れてやってほしい。

(2) 「令和6年度 保健所の主な取り組み状況について」

事務局（予防企画課長）から資料2のとおり説明

【松永委員】

新型コロナウイルスワクチンの接種期間は1月31日までですが、他の自治体では、1ヶ月または年度末まで延長するところもあるようです。仙台市は接種期間を延長しないのか。

【事務局（予防企画課長）】

本市としては、感染の流行前に接種いただくことを念頭に、接種期間を10月から1月と設定し、初年度ということもあり、個別通知を行うなど、丁寧な周知を行ってきた。

また、ワクチン不足など、接種希望者が接種できない状況は生じておらず、他の政令市と比較しても、接種率は比較的上位であることなどから、接種の機会は適切に確保できたと考えており、現時点で期間の延長は検討していません。

【松永委員】

HPVワクチンについて、年度末の3月までに1回目の接種をすれば、2回目3回目は後1年延長ということになったが、延長が決まるまでは、9月までに1回目を接種しなくてはならないということで、一部ワクチンが不足したため、3月にもそれを少し危惧している。

そのため、3月までということではなく、余裕を持って2月中に受けるよう周知してほしい。

【事務局（予防企画課長）】

そういったことも念頭に置き、1月末から順次、対象となる方への個別通知を予定している。2月3月にかけて、初回をまだ打っていない方に検討してもらえよう周知に努める。

【委員長】

駆け込みで三月の最後に来て、ワクチンがなく打てなかったという人が補助されないと大変だという話があるので、やむを得ない事情があったときには融通がきくのか。

【事務局（予防企画課長）】

早めの接種を検討いただきたい。

【委員長】

松永委員からは今のうちに受けた方がよいという広報をもう少ししてほしいという提案だと思うので、よろしくお願いします。

【事務局（予防企画課長）】

ホームページの記載等で可能な限り工夫していきたい。

【小田島委員】

資料2の3ページ『1 新興感染症への備え』について、1月28日に研修を行うと記載されているが、今注目されているところでは、効果的な判断ができるか、技術的な知識をどこまでシミュレーションを効果的に活用しながら、学んでいくかということが言われているが、こういった研修内容になるのか教えてほしい。

【事務局（予防企画課長）】

宮城県と仙台市の共同開催ということで企画しており、内容としては現在の感染症対策に関する宮城県の取り組みについての概要、仙台市としてはコロナ対策時に IHEAT の支援を受けた経験があるので、その状況について改めて報告する。また宮城県から塩釜の保健所長が参加し、積極的疫学調査の実地研修という、大きく 3 本立ての研修を予定しています。

(3)「その他」

【下山田委員】

資料はとても美しいが、非常に見にくい。初めて見ると、何がポイントなのかが今ひとつ掴みきれない。

例えば、資料 1 のいきいき市民健康プランだと、この 1 つ 1 つの事業の目標、実際に取り組んだ内容・実績があり、その実績を踏まえた考察があつて、これからどうしようとしているのかの思考プロセスが資料の中から読み取れるようになっていると共通理解が進みやすいように思うが、今回資料は事業によってそれが載っていたり載っていなかったりと、いろいろな書きぶりになっており、正直何を発言していいのかがよくわからないという感想を持った。

もし事業について、もう少し突っ込んだいろいろな発言を期待されていたり、よりよくしていくために何が必要かという議論までもこの会議に期待されているのであれば、そういった工夫などをしてもいいのかなと感じたので、これまでの経緯もあるかもしれないが、意見として述べさせていただく。

【事務局（健康政策課健康増進係長）】

目標、実績、考察、次年度に向けてという部分が、わかりやすく表現されていると委員の方々に理解してもらいやすいのかなと感じた。

次回以降、まとめ方についても工夫していきたい。

【委員長】

これまで事業の概要、目標、実績などを表形式でまとめたもので、それはそれで質問がしづらかったところもあり、今回はかなり見やすくなったが、いいところもあれば、下山田委員のような感想も出てくるので、今回の資料とこれまでの表形式でまとまっていた資料がセットになっているのがベストだとは思いますが、そこまでやれる時間があるかどうかも含めて、検討してほしい。

【小田島委員】

地域コミュニティを活用した健康クラブのようなことも、仙台市では盛んに行われており、泉区の西中山では、毎週火曜日にいきいき健康クラブが集会所で、千昌夫さんの北国の春をかけながら、楽しく、和気あいあいと、それによって孤立を防ぎ、健康への意識も高まるといったような取り組みがされている。そういった地域の活用、地域の取り組みなども、このプランで紹介してはどうか。

【事務局（健康政策課健康増進係長）】

被災者の方々の集まりやそういったコミュニティを活かした健康づくりは確かに市内各地で実施されています。

いきいき市民健康プランの中には高齢者の健康づくりも含んでいますが、介護予防については地域包括ケア推進課での取り組みなので今回は触れておりませんが、そういった健康づくりは確かに通じる活動だと認識しています。

【小田島委員】

1 月 11 日（土）の『子育てフェスタ&健康フォーラム』では私の子供と孫がハイハイレースに参加した。動画を撮ってきてもらい、資料も持って帰ってきてもらったが、映像をみると、6 レーンで 4, 5 回戦ぐらいやっているような感じで、非常に盛り上がっており、盛り上げ方も上手だなと思った。立っての競争ではなく、ハイハイというのが新しく、保護者としてそのイベントに参加する、そしてコミュニケーションがとれ、お昼寝した頃に講演を

聞いて帰ってくるという流れが、すごくマッチしていたと思う。

【委員長】

今回、子育てと合同でイベントをうまく開催できた。介護予防なども健康づくりと関係しているので、上手に情報交換しながら、ただ、全部まとめて開催となると、まとめる側も大変だと思うので、いろいろ情報共有しながら進められるとよいと思う。

【松永委員】

予防接種に関して来年度から带状疱疹ワクチンが追加されるが、これは各地方から要望があり、全国の各自治体が補助を始め、それに動かされて国が始めたと聞いている。

次に、RS ウイルスワクチンという妊婦さんが接種すると生まれてきた子供の RS ウイルス感染を予防することができるという予防接種が始まっているが、高額なので、県の産婦人科医会や小児科医会も県へ要望しているので、仙台市からも国や県に要望してほしい。

【事務局（予防企画課長）】

乳児に対する RS ウイルスの感染予防に寄与することが大変期待されており、国において、将来的な定期接種化も見据え、ワクチンの効果や安全性等に関する議論が行われることは承知している。一方でまだ発売されたばかりで、専門家会議においても各委員から様々な論点が提示されている状況でもあるので、本市としては、まずはこの議論の深まりを注視していきたい。

【本田委員】

年明けに主治医のところへ薬をもらいに行った際に、大晦日の河北新報の仙台市急患センターの人手不足の記事を読んだ。若いドクターで引き受けてくれる人が、本当に少なくて困っているという内容だった。

私の主治医は 50 代だが、診察に行くと、受付に『本日院長は昨晚急患センターで当番をしたため、一睡もしていないという状況であることをご了承ください』といったような掲示が患者向けにされていることがある。

またその医師は急患センターの当番の手配もしているため、とても困っており、次の世代になったら、きっと誰もやる人がいなくなると話していた。

また友人から、お正月急患センターの前が受診しようとしている市民の車でものすごい交通渋滞だったと聞いた。

【松永委員】

今回の年末年始の急患センターの混雑の 1 番の原因はインフルエンザと新型コロナウイルスの大流行があったことです。

また、急患センターは仙台市救急医療事業団という仙台市の外郭団体が運営しており、診療する医師との間の契約は医師会を通しておらず、仙台市救急医療事業団から各医会に委託をしている。ただ、その医会に新しく開業する若い医師がなかなか入ってくれないという問題が生じている。

仙台市医師会からも医会に入るよう開業する医師へお願いはしているが、その時は良い返事をして、そのあと入ってくれないというような状況もあり、仙台市医師会としても、少し問題だと思っている。

ただ、今回の年末年始の急患センターの混雑を見て、医師会としても仙台市いろいろと話し合い、今後こういった急な流行があるとなかなか難しいが、何らかの形で緩和したいと思っているので、いくつか連休はあるが、その間の診療体制に対して、仙台市医師会としても考えていきたいと思う。